

令和四年度 愛媛県立新居浜西高等学校 第二学期終業式式辞

皆さん、おはようございます。新型コロナウイルス感染症も収まる気配を見せませんが、マスク着用、換気を徹底しながら、元気に学校生活を続けていきましょう。

さて、日本は春夏秋冬の移り変わりを大変感じやすい国の一つです。平安時代には清少納言も「春はあけぼの、夏は夜、秋は夕暮れ、冬はつとめて」と季節ごとの美しい時間帯を紹介しています。新居浜市内を見守る美しい赤石山系の山々も少しずつ姿を変えながら、寒い冬を迎えました。たくさんの学校行事と季節の移り変わりのあった二学期が今日、終わります。二学期は学校行事や部活動を通して、各学年ともに、素晴らしい成果を残してくれました。

運動会では、3年生のリーダーシップと笑顔に感動しました。競い合う競技の中にユーモアの要素を入れ、一生懸命さとともに思いやりと余裕を感じられた素晴らしい運動会であったと思います。パネルの出来栄の素晴らしさに感心し、応援合戦の美しさと力強さに心奪われました。生徒会役員やグループ長、リーダーとして運動会を創り上げてくれた皆さん、本当にありがとうございました。

2年生が主役となった部活動も、素晴らしい結果を残してくれました。私もできる限り応援に足を運びました。野球部、サッカー部、女子バスケットボール部、ダンス部の皆さんからは元気と感動をもらいました。バドミントン部男女の活躍、特に女子の団体準優勝とダブルスの優勝は見事でした。陸上競技部の駅伝男女の5位入賞も過去最高の結果でしょう。走り切った選手の達成感と悔しさの混じり合った表情になんだか涙が出そうになりました。

高文祭では、吹奏楽部と合唱部の発表に心洗われ、優勝した囲碁将棋部の熱戦に静かな闘志を感じました。来年の全国大会に放送部と合唱部が出場できること、本当にうれしく思います。学業と部活動の両立を果たす西高生を誇りに思います。

そして1年生は、素敵な活躍をしてくれました。ワールドカップで大きなサプライズを起こした日本チームは、試合以外でも世界を感動させました。観戦後のごみ拾いとロッカールームの清掃です。世界で最も優れた文化を持つ民族だとまで書いている記事も見つけました。でも、日本人にとっては当たり前のことです。「来たときよりも美しく」と思いながら、自分たちが使った所を自分たちの手できれいにして帰る。当たり前の行動です。1年生のある部活動の生徒は、ワールドカップよりも先に、太鼓祭りの後片付けを自らやってくれました。清掃を当たり前の文化として身につけてくれている西高生にうれしい気持ちでいっぱいです。

そして、もう一つ。十月に定時制通信制の生活体験発表会が本校で行われ、1年生の皆さんが聴衆となってくれました。一時間余りの時間、静かに話を聞いてくれた皆さんの姿を見た新居浜市の高橋教育長から「西高生の静かに耳を傾ける態度に感心しました」という丁寧なお礼の手紙をいただきました。実は、「静かに聞く」と「黙って聞く」は、意味が違います。人の話を聞くためには、物理的な静かさだけでなく、心の静寂さが必要なのです。「この話つまらないだろうな」とか、「どうせあいつの意見なんて」といったような心の中の雑音を消さないと相手が本当に言いたいことは聞こえてきません。listen と silent という二つの英単語の綴りを頭の中で書いてみてください。順番が入れ替わっているだけで、使うアルファベットは同じです。アナグラムと言うらしいです。深いですね。これは、深いです。人は、ついつい偏見や先入観で人を判断してしまいがちですが、本当の声を聞き分ける心の静けさを持ちたいものです。心静かに聴衆となってくれた1年生はもちろん、西高生はみんな「静かに聞く力」を持っていると思います。

最後になりますが、3年生の皆さんが、心の中の雑音を消して、心静かに自信を持って、受験に向かって最後のひと踏ん張りをしてくれることを祈り、式辞といたします。